

高等小學書方手本  
女子用  
第二學年下甲種

K140.72  
2.21  
2Fb

K140.72

2.21

2下b



高等小學書方手本

女子用第二學年下 甲種

文部省

かけまくも畏けれども  
天皇の皇后陛下下の春  
秋に富ませ給ひて竹の園生の

高田平

まともに成りゆくを見れば  
天地と限りなき皇國の榮もおも  
はれて羨しとも羨からずや。

二

特別保護建造物。

三

高田下

鳳凰堂莊嚴華麗。

四

高田下

資金融通抵當低

五

高田十

利高步購買販賣

六

高田十

畫。翰。返。位。執。筆。皆。

七

卷一百一十一

潔。深。要。慰。回。格。抄。

八

卷一百一十二

拜啓至急由相談相願度儀  
これあり明後八日午後二時

九

由伺致度候由都合如何に也  
折返し由一報願上候草々

萬一甲下

萬一甲下

清年紙の極領道  
ハハは終日在書は待

尸止中何事は事  
下され度中家皇



秋の頃いたうあづらひて久しく望む  
しけるに内あたらを思ひやりて  
九重の秋のにしまはしかなるらん  
夜の露もほかにいづにけり。

その頃高崎の人の身に餘りぬる仰き  
いともをつたふたまるを思ひて  
五夜ならぬ玉のみこゑを傳へ来て  
身にしみあたる秋の風かな。

襖。衝。立。額。軸。物。違。

十五

高田甲一

棚。地。袋。欄。間。縁。側。

十六

高田甲一

燕。趙。韓。魏。齊。楚。秦。

漢。晉。唐。宋。元。明。清。

拜啓先達は空堂色と法馳走に相成り有り  
難く法禮申上供其の際古約束致供寄附金  
別紙為替を以て由送り申上供間法手數  
ながら然るべく由取計とされは供教具

御手紙拜見仕候過日吉光來之旨即は何の  
風情もこれなく失禮致仕由封入の為替早速  
先方へ相渡し別紙領收證由送り申上供間  
由落掌下され度仕先は要用のみ草と

東岸西岸之柳尾連心回。

南枝小枝之梅早落之香。

單衣。袷。綿。入。被。布。

繻。絆。股。引。前。垂。帶。

救世濟民奮鬥努力

力宥怒愛撫慰藉

庭の若草茂り合ひ青柳絲を亂りつ池の浮  
草は波に漂ひて錦と曝すかとあやまたる。  
中島の松にかれる藤波の紫に咲ける色

青葉まじりの遅櫻初花よりも珍しく  
岸の山吹咲亂れ八重立つ雲の絶間より  
山時鳥の一聲も君の御幸を待顔なり。



仕立上寸法

本裁女物單衣

袖丈	一尺五寸	袖口明	六寸乃至 六寸五分	袖附	六寸五分
袖幅	八寸五分	袂丸	五分	身丈	四尺

身合口	三寸	衿肩明	二寸三分	後幅	七寸五分
肩幅	八寸	衿下り	六寸	前幅	六寸
抱幅	五寸五分	衿下	二尺	衿幅	四寸
合衿幅	三寸五分	衿幅	三寸	衿	一尺六寸五分

沈着敏捷率直敦厚。

輕躁遲鈍執拗浮薄。

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコ  
ト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我  
カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一  
ニシテ世々歛ノ美ヲ濟セルハ此レ我

カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實  
ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ  
友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レ  
ヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ

習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ  
進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲  
ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義  
勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶

翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ  
臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ  
遺風ヲ顯彰スルニ足ラン  
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシ

テ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ  
古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シ  
テ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シ  
テ咸其徳ヲ一ニセシコトヲ庶幾フ

三十七

高三甲下

明治二十三年十月三十日

高三甲下

御名 御璽

三十八

V140.72-2.21  
-2下女

大大大大  
正正正正  
四四四四  
年年年年  
六六五五  
月月月月



冊冊  
七一八  
日日日  
翻翻修  
刻刻正  
發發印  
行行刷

著作權所有

大正四年六月二日  
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新地  
右衛門町十六番地  
株式會社

大阪書籍株式會社工場  
國定教科書共同販賣所

高等小學書  
第二學年女子用  
下甲種

定價金參錢

著者兼發行所  
文部  
高部  
秩父省

發行所  
大阪市南區難波原町千八百八十八番地  
大阪書籍株式會社  
代表者 三木佐助

印刷所  
大阪市南區難波原町千八百八十八番地  
大阪書籍株式會社

